

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録			
招 集 期 日	平 成 2 9 年 9 月 2 1 日 (木)		
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室		
開 会	9 月 2 1 日 午 前 9 時 3 0 分		
閉 会	9 月 2 1 日 午 前 1 1 時 2 0 分		
教 育 長	戸ヶ崎 勤		
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸ヶ崎 勤	出 席	
	仙 波 憲 一	出 席	
	吉 田 辰 行	出 席	
	鈴 木 晃	出 席	
	土 肥 美 奈 子	出 席	
説 明 員	鈴木教育部長、熊谷次長、栗津副参事、渡部教育政策室長、		
	武藤学務課長、教育政策室 川和田担当課長、細井学校給食課長、		
	津田生涯学習課長、小須田図書館・郷土博物館長		
書 記	教育総務課総務担当 山本副主幹、片桐主任		
傍 聴 人	1 人		

会議の経過及び結果

教育長

今年も残すところあと100日となりました。今日は、宮沢賢治の命日ですが、私は、宮沢賢治と言えば、「グスコーブドリの伝記」という童話の中で、講義を終えたクーボー博士に50～60人の学生たち一列になって順番にノートを見せるシーンを思い出します。

秋田県立大をこの春退任した小間篤学長は、毎年の新入生対象の「学長講義」において、次のように述べていました。「授業でノートをとることは学問の基本となります。話のポイントをつかんでまとめる習慣ができれば、社会に出てから必ず役に立ちます。」と。スマホでスクリーンを撮影して済ませたりする学生が増えていることや、多くの大学でノートを持ち歩かない学生が急増していることを危惧していたそうです。

京都市内の小・中学校では、児童生徒のノートを教員が検定方式で評価する「ノート検定」が広がっています。学習の狙いやまとめを理解できているかなど定着度を測る試みで、板書の丸写しに終わらず、自分なりに工夫してまとめる大切さを学んでもらうことが狙いとのことです。

因みに私は教員時代に、「ノートに覚えさせるな。授業中の説明や対話や板書のすべてが同じ比重ではない。ノートをとることで必要・不必要を峻別できる力を育てよ。」と生徒たちに話していました。

ある私立大は、受験生が模擬授業で取ったノートを評価する入試を導入しました。「講義を受ける力」を見るのが狙いだそうです。ネット上の短いやりとりが主流となり、相手の話にじっくり耳を傾ける姿勢が失われているとしたら、若者だけの問題ではなさそうです。

教育長

ただ今から、平成29年第9回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。

各 委 員	了承
教 育 長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各 委 員	署名
教 育 長	次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。「報告事項⑥ 平成29年度第1回戸田市海外留学奨学生について」は、個人情報となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。
各 委 員	異議なし
教 育 長	それでは「報告事項⑥」は、秘密会とすることに決定いたしました。
教 育 長	はじめに、「教育委員提案について」御報告いたします。以前の教育委員会にて委員より御質問のあった件について報告がございます。 ① 平成29年度夏季休業中の戸田市教職員専門研修実施報告について (鈴木委員・仙波委員提案) ② 視察の受け入れについて (吉田委員提案) ③ コミュニティ・スクール導入に向けた研修会について (土肥委員提案) それでは鈴木委員と仙波委員から御提案のありました「教育委員提案① 平成29年度夏季休業中の戸田市教職員専門研修実施報告について」事務局より説明願います。
事 務 局	①平成29年度夏季休業中の戸田市教職員専門研修実施報告について報告します。 夏季休業中の教職員専門研修につきましては、全13講座を開催し、のべ265名の教員が研究と修養に励みました。教育委員の皆様には、実際に研修会に参加いただいたり、Facebook を御覧いただいたりしているかと思いますが、改めて研修内容を報告いたします。 資料1 ページを御覧ください。「21世紀型スキルを育む授業づくり」

として、今年度は「国語科」と「理科」の2教科について、アクティブ・ラーニングの授業づくり研修会を実施いたしました。特に今年度は、思考を可視化したり、整理したりする「思考ツール」や、ICTの授業活用の研修を中心に行いました。来年度は「算数・数学科」と「社会科」の講座を開催する予定です。

2ページを御覧ください。課題解決型研修として、インテル社が開発したインテル・ティーチ・プログラムを各学校の代表者によるマスターティーチャー研修と、今年度戸田市に異動した教員による異動者研修で実施しました。

受講した教員は、「21世紀型スキル」についての理解や、複数の教科を関連付けて課題を解決するプロジェクト型学習による授業デザインを、小グループによるワークショップ形式で学びました。このインテル・ティーチ・プログラムは、現在世界70カ国以上で1,500万人以上の教育関係者が受講しており、戸田市では昨年度から実施しているものです。

3ページを御覧ください。未来に求められる学びの支援に関する研修です。「プレゼンテーション」、「プログラミング」、「経済教育」といった、全国的にも注目されている研修会を開催いたしました。特にプレゼンテーション研修会については、よく行われているパワーポイントなどのプレゼンソフトの使い方研修会ではなく、プレゼンテーションそのものの研修会を行いました。教員対象のプレゼン研修会は全国的にも珍しいものではないかと思えます。実際に行ってみますと、教員こそ、プレゼン能力が必要であると再確認したところです。

どの研修会にも共通することとして、本市が産官学民との連携により得られた人脈をフル活用し、超一流の講師を招聘し実施したことを申し添えます。

次に4ページを御覧ください。小学校英語活動、中学校英語指導法研修です。小学校英語活動の指導法研修会では、現在本市で導入している15分間の短時間英語活動、いわゆるモジュールによる英語活動の研修

を小学校の2会場で開催しました。

また、中学校英語研修では、前青山学院大学、現武蔵野大学特任教授の村川久子先生に英語によるプレゼンテーションの在り方の御指導をいただきました。今回の研修は特に先生が英語漬けになり、英語脳をフル回転させるものとなりました。受講した教員の感想には、「教員になると自分で書いた英文などのチェックしていただく機会がないため、楽しく、嬉しかった」というものがありました。

特に中学校教員については、教え方を磨くとともに、自分の専門教科のスキルを磨き続ける必要があることから、大変有意義な研修会であったと捉えています。

5ページを御覧ください。その他にも、道徳、ユニバーサルデザイン、特別支援教育の研修会も実施いたしました。道徳については、文科省で公開している動画資料がありますので、その情報提供と動画を活用した研修を行いました。現在、文科省や独立行政法人教職員支援機構で公開している動画等は、国としての方向性等をダイレクトに学ぶことができるものであり、今後も積極的に活用していきたいと考えています。

また、ユニバーサルデザイン研修については、今回の研修をもとに市全体で共通理解できる取組を整理し、一層推進していきたいと考えています。

特別支援教育研修会では、幼保小中の先生方が集まり、特別な支援が必要な児童生徒への対応について、各校種の接続を共通テーマに有意義な協議を実施することができました。

6ページは、各研修を受講した教員を対象としたアンケートの集計結果です。4項目、各5点となっています。多くの研修で5点に近い評価をいただいております。

研修には大きく2種類あると思っています。1つは日々の授業に直接生かす指導法研修であり、いわゆる「How to」研修会、もう1つは日々

	<p>の授業には直接生かすことはできないかもしれませんが、今後の教育の方向性を学ぶ研修、いわゆる「What to」研修会です。</p> <p>評価の低いと言っても点数としては4点前後ですが、そのような研修が幾つかあります。この研修に共通していることは、授業にすぐに生かすことができない、「How to」研修の色合いが薄い、「What to」研修となっています。</p> <p>「How to」と「What to」のバランスが大事なことは言うまでもありませんが、最近では、若手教員の増加や多忙化解消の課題もあり、「How to」研修会が重視され、教員もそれを求めている傾向があると感じます。しかし、戦後最大の教育改革を進めている、また若手教員が増えている今だからこそ、「What to」研修会が大変重要であると考えています。</p> <p>今回実施した「インテル・ティーチ・プログラム」による研修は、まさに教員のマインドセットに影響を与える「What to」研修会です。20年、30年後のために何を学ばせるべきかを考え、少しずつでも日々の授業を改善して欲しいと思っています。</p> <p>教員は「教えの専門家」であるだけでなく、「学びの専門家」でなければなりません。今回の様々な研修を受講した教員がメンターとなり、児童生徒の将来を見据えた教育を推進してくれることを期待しています。</p> <p>最後に1分程度ですが、本市の研修PR動画を作成いたしましたので御覧ください。</p> <p><動画視聴></p> <p>まだ十分なものに仕上がっていませんが、今後、他市のやる気のある優秀な教員を確保するために、本市の特色である産官学民の知のリースを活用した研修などの取組を作成し、アピールしていきたいと考えております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>何か御質問等がありましたら伺います。</p>
<p>委 員</p>	<p>研修後、受講者にアンケートをとっていますが、フォローアップとし</p>

	<p>て、受講者がメンターとして他の先生方に研修内容を伝えているか、また、波及効果やその後どうなったか等を聞く機会を設けてほしいと思います。</p>
事務局	<p>受講者には後日アンケートをとる予定としております。そのアンケートは、パソコン上で答えられる簡単なものとする予定です。</p> <p>また、マスターティーチャー養成研修を受講した教員から何人かを選び、授業の変容についてビデオ撮影を実施することを考えているところです。</p>
委員	<p>教職員研修について、このようにまとめていただくと、この研修を通して戸田市がどのような先生、どのような子供を育てたいのかよくわかります。産官学民との連携で一流の講師を招き、そのような地道な努力が子供たちの成績に表れているのではないのでしょうか。教育改革にふさわしい研修の在り方だと思います。</p> <p>今後はさらに現場の先生が「深い学び」について取り組んでほしいと思います。どのようなものが深い学びにつながるのでしょうか。</p>
事務局	<p>先程、「How to」研修と「What to」研修があると御説明いたしましたが、教科の本質は「What to」研修にあると考えています。これが指導できてこそ教員だと思います。まだまだ十分ではありませんが、本市の教員にはやる気があり、皆前向きに取り組んでおりますので、期待していただきたいと思います。</p>
委員	<p>私はプレゼンテーション研修会、経済教育研修会に参加させていただきましたが、講師が大変素晴らしかったです。また、受講者が熱心であったのが印象的でした。</p>
委員	<p>私も様々な研修会に参加させていただいていますが、学校訪問に伺った際の指導案に今まで聞いたことのない言葉が出てきて、まだまだ勉強しなければならないと感じました。</p>
事務局	<p>指導案については、つつい教員向けに作成してしまいがちですが、</p>

	<p>今後は一般の方にもわかるように作っていきたいと思います。</p>
教 育 長	<p>研修が教員の負担にならず、受けてよかったと思える、効率的で効果的なものになるよう追求していきたいと考えています。さらに、研修を実施するだけでなく、フォローアップを行い、継続して研修の成果を見届けてまいります。</p> <p>また、研修そのものがとだっ子の学力に結びついているのか、研修の成果と学力との相関関係についてエビデンスが出せるような研究も行いたいと考えています。</p> <p>受講者アンケートについては、研修効果を表しているのか、正しい受講者の意見なのか疑問に思うところもあるので、クリティカルシンキングを持ち、正直に書けるような雰囲気づくりなど心がけてもらいたいと思います。</p>
教 育 長	<p>他に御質問等がないようですので、続きまして吉田委員から御提案のありました「教育委員提案② 視察の受け入れについて」事務局より説明願います。</p>
事 務 局	<p>②視察の受け入れについて報告します。</p> <p>資料 7 ページ、8 ページを御覧ください。産官学民との連携により、新しい学びの創造などを進めている本市の教育改革の取組が、新聞、雑誌等、様々なメディアで取り上げられるようになったためか、今年度に入り、視察依頼が殺到しております。</p> <p>今年度、6 月から 11 月まで 23 件の視察を受け入れる予定です。また、この資料作成以降も視察依頼をいただいております。</p> <p>来訪者、視察内容につきましては、8 ページに一覧表でまとめております。来訪者につきましては、今年度、特に他市議会（常任委員会）の視察が増えております。</p> <p>視察内容につきましては、本市が力を入れている産官学民との連携や</p>

	<p>I C T教育、学力・学習状況調査についての視察が多くなっております。</p> <p>また、視察の受け入れだけでなく、各地に招かれて本市の教育改革について発表を行っております。一例を申し上げますと、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自民党政調での教育委員会制度改革後の現状についての発表（6/16） ・ 文科省での総合的な教師力育成の発表（7/24） ・ 校務の業務改善推進セミナーでの事例発表（富山県、7/28） ・ 市町村教育委員会研究協議会での学力向上の取組などの事例発表（沖縄県、11/16～11/17）などです。 <p>これらを通して、様々な自治体とネットワークを構築し、それぞれの自治体のよい取組を広げていきたいと考えております。</p>
教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	以前と比較して視察の件数は増えているのですか。また、視察に来られた方がどのように感じているのでしょうか。
事 務 局	今年度に入って視察依頼が殺到しており、以前と比較して大幅に増加しています。視察に来られた方にアンケートなどはとっていないのですが、概ね満足して帰っていただいているように感じています。
教 育 長	<p>よく聞かれるのが、産官学民との連携やなぜそれだけの予算が付いたのかということです。</p> <p>産官学民との連携については、視察に来て話を聴き、自分のところでもできるのではないかと思ったということ、また、予算については、総合教育会議が機能し、市長と教育委員会とが一体となって進めていることは大変素晴らしいことだ、と他市から評価されたのが印象的でした。</p> <p>視察先に選んでいただいたからには、何か土産をもって帰ってもらいたいと思いますし、戸田市としても与えるだけでなく、こちらも知見等をももらったり、先進市に視察に行ったりする必要があると思いますので、</p>

	事務局はぜひ検討してください。
教 育 長	他に御質問等がないようですので、続きまして土肥委員から御提案のありました「教育委員提案③ コミュニティ・スクール導入に向けた研修会について」事務局より説明願います。
事 務 局	<p>③コミュニティ・スクール導入に向けた研修会について報告します。</p> <p>資料9ページを御覧ください。戸田市では平成30年度に全ての小・中学校にコミュニティ・スクールを導入いたします。コミュニティ・スクールは、各学校に学校運営協議会を設置し、教育委員会が任命した委員によって、校長が作成する学校運営の基本方針の承認をするなど、委員には一定の権限と責任が発生します。つきましては、コミュニティ・スクール導入に係る研修会及びコミュニティ・スクール導入に向けての進捗状況について報告します。</p> <p>はじめに資料9ページを御覧ください。学校が主体となって進めている研修会などについて、芦原小と笹目小の実践を報告します。</p> <p>芦原小学校では、8月21日に、杉並区立天沼小学校の福田校長先生を講師として招聘し、「地域みんなで子供の未来を考える懇話会“芦原ワークショップ”」を開催しました。当日は、芦原小学校の教職員、保護者、地域の方など合わせて約60名が参加し、「どんな芦原っ子にしたいのか」「そのために学校を支援する地域や保護者の役割は」をテーマとして、熟議が行われました。</p> <p>写真にありますように、熟議では、立場の違う者が円卓型のコミュニケーションボードを囲み、芦原小の子がどんな姿に育ってほしいかという話し合いが行われました。最後はグループの意見を全体に発表し、共有する場面を設けていました。初めて顔を合わす方が多かったので、最初は遠慮がちでしたが、「自分の学校・地域の子供を育てる」という共通の視点であったため、次第にどのグループも活発な話し合いとなっていたと報告を受けています。</p>

	<p>笹目小学校では、市内に先駆けて今年度の初めから準備委員を選定し、コミュニティ・スクール準備委員会を開催しています。4月から6月までは、教育方針、学力や体力、教育相談、特別支援教育といった様々な面の現状や課題を準備委員の方にお伝えしたそうです。委員の方々の中には、これまでに評議員や応援団などで活動いただいている方もいらっしゃいますが、改めて現状を知ることができ、自分たちが受けた教育と現在の戸田市の教育の違いや先進的な取組など、広く理解を得られたとのことでした。</p> <p>次に、資料10ページ、教育委員会が今年度、計画・実施している研修会について御説明します。</p> <p>管理職向け研修会は、今年度新たに管理職となった、あるいは他市から転任してきた校長・教頭を対象とした研修会です。講師には、文部科学省の相田様を招聘し、コミュニティ・スクールの役割についての講義と実際に熟議を行ってみるという演習をしていただきました。</p> <p>地域連携推進担当教職員向け研修会は、来週予定されている、地域連携の核となる教職員向けの研修会です。この研修会では、芦原小学校の主幹教諭を講師として、同校で進めている地域連携や、コミュニティ・スクール準備委員会の立ち上げの実践例の紹介等を予定しています。</p> <p>さらに、準備委員向け研修会は、10月3日に市内の全小・中学校の準備委員を対象とし、実施する予定です。この機会に市内の準備委員の方々全員に対して、コミュニティ・スクールについて御理解いただきたいと考えております。当日は、学校運営に参加する責任の意識や、実際の熟議の方法などを体験しながら御理解を深めていただこうと考えております。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>何か御質問等がありましたら伺います。</p>
<p>委 員</p>	<p>準備委員会の委員が学校運営協議会の委員になるのでしょうか。また、委員の決定はいつ頃になるのでしょうか。</p>

事務局	<p>準備委員会では、学校運営協議会の立ち上げ準備を行っていますが、準備委員のほとんどが学校運営協議会の委員となる見込みです。</p> <p>また、委員の決定は、来年度当初の予定です。</p>
委員	<p>学校評議員と学校運営協議会の委員との違いを認識する必要があるので、研修は必要だと思います。</p>
事務局	<p>学校運営協議会の委員に一定の権限と責任が生じるため、校長からも伝えておりますが、研修を実施し、理解していただきます。</p>
委員	<p>切り替えにどれくらいかかるのでしょうか。</p>
事務局	<p>モデル校として何校か指定し、その後、他の学校に波及させるという方法を取っている市もあると伺っておりますが、本市は平成27年度から準備を進めてきていることから、来年度全校導入いたします。</p>
教育長	<p>以前から準備してきており、この制度にデメリットもないことから、戸惑いもないようです。</p> <p>事務局から国の動向等何かありますか。</p>
事務局	<p>コミュニティ・スクール制度については、法律改正により制度も成熟してきました。特に学校現場が課題として感じている指摘される人事に関することについても柔軟に対応出来るような制度上の後ろ盾ができ、また、埼玉県では学校応援団を長年実施してきたという土壌もあるため、来年度の全校一斉導入に向けて引き続き校長等とも連携しながら対応いたします。</p>
教育長	<p>他に御質問等がないようですので、続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして、7件の報告がございます。</p> <p>① 平成29年第4回戸田市議会定例会(9月)教育関連一般質問 件名・概要について</p> <p>② 中学校学校選択制における通学区域外受入予定定員数について</p>

	<p>③ 平成29年度戸田市教育委員会等研究委嘱校の研究発表会について</p> <p>④ 子育て講演会の開催について</p> <p>⑤ 第18回昔のくらし展の開催について</p> <p>⑥ 平成29年度第1回戸田市海外留学奨学生について</p> <p>⑦ その他</p> <p>秘密会となる報告事項⑥以外の詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了したのちに伺います。</p>
<p>事務局</p>	<p>①平成29年第4回戸田市議会定例会(9月)教育関連一般質問 件名・概要について報告します。</p> <p>今回は13名の議員から教育委員会に一般質問が出され、市議会の教育に対する関心の高さがうかがえました。その教育関連一般質問の件名と答弁内容につきましては、資料の1ページから19ページに掲載しておりますので、概要について報告いたします。</p> <p>資料1ページを御覧ください。手塚議員からは、防災訓練について質問が出され、訓練の中にパッククッキングと拡張現実(AR)によるバーチャル防災訓練を取り入れてはどうかという質問がありました。</p> <p>次に林議員からは、来年度、市内全小・中学校で導入予定のコミュニティ・スクールの概要についてと、大規模災害時の子供たちの保護と保護者への引き渡しの状況についての質問が出されました。</p> <p>次に4ページ、細田議員からは、学校給食に関する課題として、中学生の給食の量、給食の残菜の扱い、配膳方法についての質問が出されました。</p> <p>次に佐藤議員からは、教育相談体制について、相談職の雇用形態と相談窓口について質問が出されました。</p> <p>次に5ページ、十川議員からは、市民大学認定講座の実績と現状、課</p>

	<p>題や展望について質問が出されました。</p> <p>次に7ページ、浅生議員からは、児童虐待の対応について、特に関係機関との連携や学校での啓発について質問が出されました。</p> <p>次に8ページ、金野議員からは、特別支援教育の現状や家庭・学校との連携について質問が出されました。</p> <p>次に10ページ、三浦議員からは、防災対策について学校タイムラインの策定と教職員の研修への参加について質問が出されました。</p> <p>次に竹内議員からは、いじめ対策についてと13ページ、学校の熱中症対策についての現状と対策、運動会の児童席へのテント設置について質問が出されました。</p> <p>次に14ページ、花井議員からは、図書館本館の改善についてと部活動の外部指導員等について質問が出されました。</p> <p>次に16ページ、むとう議員からは、戸田東小中一貫校の建てかえについて質問が出されました。</p> <p>次に18ページ、矢澤議員からは、子供の安全について質問が出されました。</p> <p>最後に、高橋議員から、下戸田地区の3つの小学校の学区の見直しについてと新曽中学校の教室不足対策について質問が出されました。</p>
事務局	<p>②中学校学校選択制における通学区域外受入予定定員数について報告します。</p> <p>資料20ページを御覧ください。戸田市では、平成17年度入学の1年生より中学校学校選択制を導入して現在まで至っております。</p> <p>現在、戸田市立中学校では生徒数や学級数が増加傾向にあり、各中学校の施設の状況を踏まえ、通学区域外の受入定員数に制限を加えて実施しております。</p>

	<p>今年度の各中学校の受入予定定員数は資料20ページのとおりです。受入定員数が上限の35人より少ない学校は、戸田中学校と新曽中学校の2校です。2校の受入定員数は、20人としております。</p> <p>今後、各中学校への希望状況や私立中学校入学予定者数、10月1日現在の平成30年度児童生徒見込数調査等をもとに、各中学校長と協議し、正式な受け入れ定員数を決め、11月10日に周知してまいります。正式な定員数を決める際には、可能な限り抽選を回避できるよう配慮してまいりたいと考えております。</p> <p>定員を超えた場合は、抽選となります。抽選は11月18日（土）に行います。その後、補欠者繰り上げ期間を設け、2月20日（火）が最終決定となります。</p> <p>なお、正式な定員数の周知が11月10日であることから、教育委員会への報告は11月の定例教育委員会での事後報告となりますこととお許しください。</p>
事務局	<p>③平成29年度戸田市教育委員会等研究委嘱校の研究発表会について報告します。</p> <p>資料21ページの一覧表にあります9校が、今年度、研究委嘱発表会を行います。</p> <p>No1の戸田第二小と、No9の戸田東中は、文部科学省の「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の研究協力校の授業公開となります。</p> <p>No2からNo8の7校については、戸田市教育委員会の委嘱発表であると同時に、文部科学省委託事業である「課題の発見解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」の発表となります。</p> <p>戸田第二小につきましては、1年目ではありますが、発表を行い、広く意見を伺いたいという申し出があり、発表校となりました。</p> <p>どの発表会も午後からの開催となります。改めて御案内いたしますの</p>

	<p>で、可能な限り御参観いただければ幸いです。</p>
事務局	<p>④子育て講演会の開催について報告します。</p> <p>生涯学習課では、主に小・中学生の保護者への家庭教育の支援を図るため、今年度も子育て講演会を開催いたします。</p> <p>今年度の子育て講演会は、10月11日（水）の午前10時30分から正午まで、新曽公民館ホールで開催いたします。</p> <p>講演内容は、思春期の子供と親の人間関係に視点を当て、「オール1の落ちこぼれ、教師になる」と題し、宮本 延春さんを講師にお招きして開催いたします。講師は、いじめ、引きこもりを克服して教師になった経験を生かし、大人や子供に夢と希望と感動を与えるべく研修会・御講演等の活動をされています。</p> <p>対象は、市内小・中学校PTAの皆さんと、9月1日号の広報で市民の方にも参加を呼びかけているところです。</p>
事務局	<p>⑤第18回昔の暮らし展の開催について報告します。</p> <p>「発見 昔の暮らし」と題する第18回昔の暮らし展は、電化製品がなかったころに使われていたくらしの道具、初期の電化製品や部屋の様子を通じて、くらしの移り変わりを紹介するものです。</p> <p>開催期間は、平成29年10月28日（土）から12月17日（日）までの45日とし、展示会場は、戸田市立郷土博物館3階特別展示室で行います。入場は無料です。</p> <p>この昔の暮らし展は、博学連携事業の一環として、市内全小学校、3年生の郷土博物館授業に活用されております。</p> <p>その他開催に係る事項につきましては、資料記載のとおりです。</p>
教育長	<p>次に⑦その他ですが、事務局より何かありますか。</p>
事務局	<p>特になし</p>

教 育 長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	報告事項③について、戸ニ小の研究主題が「動く」となっており、斬新です。ぜひ発表会を見に行きたいと思います。
事 務 局	「能動」、「協動」など、「動」のつくものを研究主題としているとのこと。この研究主題は、校長ではなく、教員が話し合いで決めたとのこと。
教 育 長	それでは、他に質問がないようですので、次に、「議案第30号 平成30年度当初教職員人事異動の方針について（案）」を事務局より説明願います。
事 務 局	<p>資料1ページを御覧ください。平成30年度当初戸田市立小中学校教職員人事異動の方針につきましては、埼玉県教育委員会の「平成30年度当初教職員人事異動の方針」及び「平成30年度当初市町村立小・中学校等教職員人事異動方針細部事項」に基づいて作成いたしました。なお、埼玉県教育委員会の人事異動方針は、3ページ以降に記載しております。</p> <p>はじめに、埼玉県教育委員会の平成30年度当初人事に係る人事異動方針についてですが、昨年度との変更点はございません。</p> <p>それでは、戸田市の人事異動方針について概要を説明いたします。2ページを御覧ください。方針（案）は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県の方針と細部事項に基づき、円滑、適正な人事異動を行い、本市学校教育の充実と進展を図ること 2 教育の機会均等を図るため、各学校の教職員組織の充実と均衡化に努めること 3 配当定員に対して過員を生ずる場合には、調整のため異動を優先すること

	<p>4 教職員は同一校在職10年以内に異動を行うこと、特に7年以上の者は積極的に異動を行うこと</p> <p>5 新規採用教職員については、多様な経験を積ませ、資質の向上を図るため、採用後5年以内に市町村間の異動を行うこと</p> <p>6 同一校在職3年未満の者、産休・育休等を取得中及び休職中の教職員については原則として異動の対象としないこと</p> <p>7 管理職候補者名簿登載者は、職務経験を豊かにするため積極的に異動を行うこと</p> <p>8 再任用者の適切な配置に努めること</p> <p>9 女性教職員の積極的な登用に努めること</p> <p>今後、この方針に基づき、平成30年度当初教職員人事異動に関する事務を進めていく所存ですので、御審議のほどよろしくお願ひいたします。</p>
教育長	以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教育長	県教委の人事異動方針について、変更がない状況が続いています。これだけ社会が変わっている中、人事異動方針に変更がないのは疑問であり、特別免許状授与者の積極的な配置等、戸田市独自の方針を打ち出すことはできないのでしょうか。
事務局	女性登用については昨年度加えたものです。また、経験人事についても原則論です。
教育長	経験人事や特別免許についてもっと議論されなければならないと思います。戸田市から実情に合う良いものを提案、提言していくべきではないのでしょうか。ぜひ検討してください。
委員	最近マスコミで働き方改革など、教員の負担軽減について注目が集まっていますが、教員の増員などの嬉しいニュースはないのでしょうか。
事務局	国では、負担軽減については、教員を増やすのではなく、部活動指導

	員やスクールサポートスタッフを配置し、教員がやらなくてもよい事に対する支援を充実させていく方向です。
教 育 長	業務改善や負担軽減について、先進的にやれることはどんどんやっていきたいと考えています。本市は非常勤職員の配置割合が高く、手厚くしています。時代の変化に伴い、ボトムアップで改善できるものはやっていきたいですし、各学校でも教育委員会から言われるのではなく、自分たちでできることはどんどん改善して行ってほしいと思います。
委 員	県の人事異動方針は抽象的ですが、裁量が入る余地はあるのでしょうか。また、戸田市でこういうことをやりたいと声を上げることはできるのでしょうか。
事 務 局	人事権は県が握っており、ケースバイケースですが、聞いてもらえる余地はほぼありません。
教 育 長	県に改善を求める必要があると思われるものは声を上げるべきではないでしょうか。
委 員	県に対し言い続けることが必要です。その結果、改革が進むかもしれません。
教 育 長	本市では、Teach For Japan から4人のフェローを派遣していただいています。この取組は今後どんどん広がっていくのではないのでしょうか。埼玉県教育委員会は、小・中学校の特別免許状の授与など慎重になっていると思いますが、諦めずに改善を求めていくべきと考えます。
教 育 長	それでは、他に質問等がないようですので打ち切ります。議案第30号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。
委 員	異議なし
教 育 長	異議なしと認め、議案第30号は提案内容のとおり議決いたします。
教 育 長	次に、「議案第31号 戸田市立図書館・郷土博物館の休館について(案)」を事務局より説明願います。

<p>事務局</p>	<p>図書館・郷土博物館では、来年平成30年10月から平成32年1月まで施設の設備改修工事を予定しております。工事期間中は、職員も建物内には入ることができず、仮事務所へ移転することとなります。また、工事の際、支障となる資料等についても建物外に移動しなければなりません。</p> <p>このことから、工事期間の前後に図書館、郷土博物館それぞれの資料搬出、事務所移転等の作業が必要なことから、図書館本館については、平成30年7月1日から、郷土博物館については、平成30年4月1日からそれぞれ平成32年3月31日までを休館することについて図書館条例、郷土博物館条例に基づき、お諮りするものです。</p> <p>図書館は7月から、郷土博物館は4月からと休館期間開始日に差がありますが、郷土博物館については、収蔵品を搬出する際には常設展示室内を通らなければならないため、4月からとなっております。</p> <p>つきましては、図書館・郷土博物館の休館につきまして、御審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>以上で説明が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。</p>
<p>委員</p>	<p>休館期間中、本館の図書を借りることができないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>仰るとおりです。しかし、よく借りられている一部の本につきましては、分館に移し、貸し出しを行います。</p> <p>また、近隣市と協定を締結していることから、リクエストのあった本については、取り寄せて貸し出しを行います。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、他に質問等がないようですので打ち切ります。議案第31号は、提案内容のとおり議決することに御異議ございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>異議なし</p>
<p>教育長</p>	<p>異議なしと認め、議案第31号は提案内容のとおり議決いたします。</p>

教 育 長	次に、次第の6その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
事 務 局	次回、教育委員会定例会の日程ですが、10月26日（木）午前9時30分からの開催について、お伺いたします。
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
各 委 員	了承
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次に、その他ですが、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし
教 育 長	来月の教育委員提案のテーマについて委員から何かございますか。
委 員	何度か説明いただいておりますが、プログラミング教育について、その後の進捗状況について報告してください。 また、小学校英語教科化への対応について報告してください。
事 務 局	承知いたしました。
委 員	教員の働き方改革、業務改善に関係するかと思いますが、給食費の集金について、手集金や未納者対策等、教員の負担軽減をどのように考えていますか。例えば、給食費の公会計化について、検討されているか報告してください。
事 務 局	承知いたしました。
委 員	本日報告のあった、「How to」研修と「What to」研修についてももう少し説明いただくとともに、研修の在り方について報告してください。
事 務 局	承知いたしました。

